

温室メロングリーンな栽培技術普及協議会（静岡県磐田市）

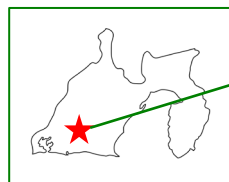
R5補正
R6当初

29

背景・課題

当地の温室メロン栽培は、スリークォーター型のガラス温室で栽培されるのが基本である。冬でも暖かく栽培できるよう開発された専用温室であるが、近年では逆に暑熱対策で苦慮しており、防虫網が未設置の場合もある。

従来は化学農薬で害虫に対応してきたが、最近では、害虫の農薬抵抗性獲得による難防除化が深刻化している。これまでも生物農薬の利用は試みられてきたが、「1作型の本圃在圃期間が2.5か月しかなく、天敵の定着には短すぎる」「栽培管理上、極端に乾湿差をつけることがあり、天敵の生育に不適となる」等の理由により、普及に至っていない。



磐田市

構 成 員

県温室農協磐田支所、管内生産者、磐田市、県

品 目

温室メロン

成果目標

化学農薬主体の防除体系を見直す

- 天敵資材・緑色粘着トラップ・(赤色)防虫網等の併用による化学農薬使用量の低減
- 農薬散布回数の低減、化学農薬に対する病害虫の抵抗性拡大を回避
- グリーンな栽培体系に取り組む面積 令和3年度：0ha → 令和11年度：2.5ha

主な取組内容

- 天敵資材としてスワルスキーカブリダニのパック製剤を活用する（令和4年度）
- 温室メロンで特に問題となる害虫ミナミキイロアザミウマ対策に緑色粘着トラップを併用する（令和5年度）
- （赤色）防虫網の併用については検証中（令和6年度）



定植前に温室全体に粘着トラップを設置する



従来の青や黄色より効率的に‘ミナミキイロアザミウマ’を誘殺する新色（緑色）の粘着トラップ



交配期には天敵の放飼も併せて行う

普及に向けた取組

温室メロンの周年栽培では、上述のとおり天敵管理が難しいばかりでなく、1つの同じ温室で年間4作以上の栽培を行っているため、収穫から次作の定植まで1～2週間しか期間がなく、前作の生き残った害虫が次作の定植苗を加害している懸念がある。また温室は通常、敷地内に連続して建てられているため、周辺温室からの飛び込みもあるなど様々な問題が想定されている。このため、1作中の管理だけでなく、全棟・園地全体での年間管理体系として、総合的な防除策を検討中である。

問い合わせ先

静岡県中遠農林事務所生産振興課
TEL：0538-37-2271